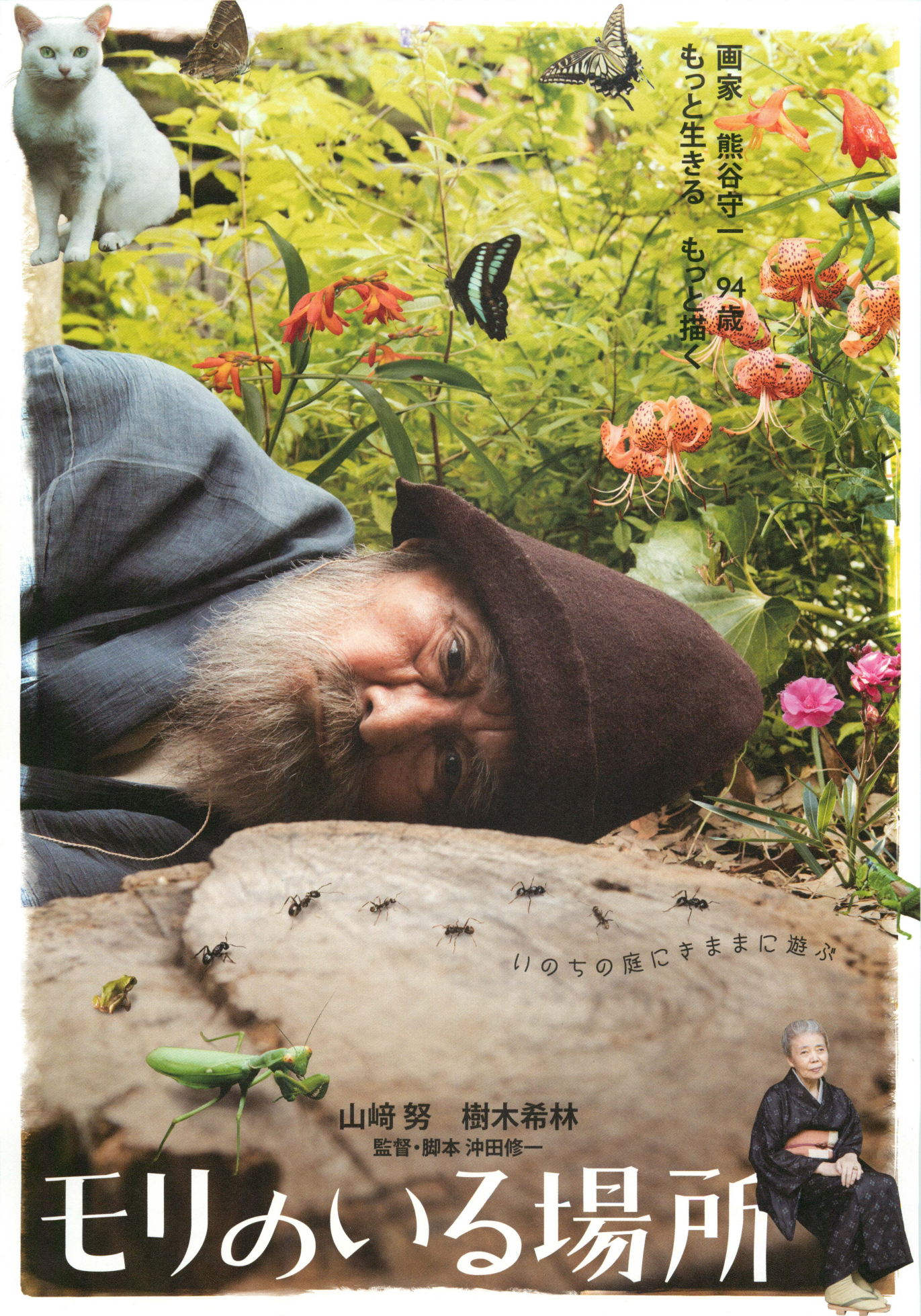


画家 熊谷守一 94歳
もつと生きる もつと描く

いのちの庭にきままに遊ぶ

山崎努 樹木希林
監督・脚本 沖田修一

もりめいる場所





「わたしは
生きていくことが
好きだから、
ほかの生きものも
みんな好きです。」
—熊谷守一—

時流にも無頓着、まるで少年のように自分のやりたいことだけに夢中
「仙人」と呼ばれた画家・モリ94歳。

ともに人生の荒波を乗り越え、ちよつと変わった夫との暮らしを楽しんでいる(?)
笑顔がチャーミングな妻・秀子76歳。

画家が愛する庭と小さな生命たち、
老夫婦のお茶の間に集う人々のある夏の日。

それは、愉しくて、温かくて、かけがえのない物語。

昭和49年、東京・池袋。老夫婦に魅せられて、若い写真家さんやら画商さんやら
近所の人やら得体の知れない人やら・・・熊谷家はいつも賑やか。今日もまた、
モリとモリを愛する人々の、なんでもない、でもちよつとオカシナ一日が始まる——

仕事や、家庭や、いろいろと大変な現代。ほんのひととき、
あなたもモリの庭で深呼吸してみませんか？



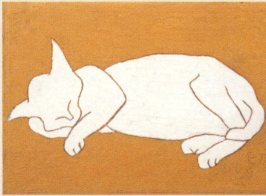
**画家夫婦に名優・山崎努&樹木希林
監督は俊英・沖田修一(『南極料理人』)**

30年もの間、家の外へ出ることなく、ひたすら
庭に生きるたくさんの虫や猫や草木などを見
つめ、描きつづけた画家・熊谷守一のエピソード
をもとに、現在の日本映画を牽引する沖田監督が、
どこか懐かしく温かなオリジナルストーリーを紡ぎました。


今作が初共演となる山崎努(80歳)と樹木希林
(74歳)は言わずと知れた日本を代表する名優。
このふたりと、ふたりを取り囲む豪華キャスト
たちが繰り広げる、可笑しくてオカシなやりとり
にクスクス、夫婦愛にほろり、珠玉の物語をお届け
します。

熊谷守一とは？

岐阜県生まれ。実業家・政治家の父を持ち家は裕福だった。岐阜中学3年で上京、跡を継がせたい父の願いと裏腹に画家を志す。東京美術学校(現・東京藝術大学)に入学、首席で卒業する。父の急死により生活が困窮、絵では食べて行けず樺太漁場調査隊やヒヨウ(溪流で木材を運ぶ運搬業)などのアルバイトも経験する。当時唯一の絵の在野団体だった二科会に長らく所属した。晩年は身近な動物や植物、身の回りのものを深い洞察力をもって描き独自の画業を切り開いた。無駄を一切削ぎ落し対象の本質を捉えたその絵は「モリカズ様式」とも呼ばれ今なお多くのファンに愛され続けている。



熊谷守一
「鬼百合に捕羽蝶」
1959年
東京国立近代美術館



「白猫」
1959(昭和34)年 4号
油彩/板
豊島区立熊谷守一美術館蔵

山崎努 樹木希林
監督・脚本: 沖田修一
制作: 日活・ダブ

製作: 「モリがいる場所」製作委員会
配給: 日活 ©2017「モリがいる場所」製作委員会
助成: 文化庁文化芸術振興費補助金

mori-movie.com
twitter @mori_movie
facebook @morimovie2017

**2018年5月、シネスイッチ銀座、ユーロスペース、
シネ・リーブル池袋、イオンシネマ他全国ロードショー**

特別鑑賞券¥1,500円絶賛発売中(当日¥1,800の値) 先着でオリジナルグッズプレゼント!(詳しくは公式サイトまで)

東京国立近代美術館にて大回顧展
「没後40年 熊谷守一 生きるよろこび」
12月1日～2018年3月21日